

外部評価の結果

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

このグループホームは、男女およそ同数の人が生活している理想的な姿を見ることが出来た。90歳代の人もいるが、グループホームの住人にしては比較的若い人が多く、特に男性は若く、昭和生まれの人がグループホームで過ごす時代になって来たのかなあと感じた。

このホームの利用者の特徴は利用者同士で声かけをしたり、お互いの不足している部分を補いあって生活している事である。徘徊しがちの人に対して、利用者がその人の気持ちの高揚を抑えたり、誤認していることをうまく誘導したりしている。また、食べていない人に、もっと食べるよう促したりしている様子に感心した。

また、自分の趣味を持っている事を自分だけのものに止めず、ホームの人に役立つようにしていることである。例えば写真の撮影が得意な人は、ホームの行事や色々な場面の写真を撮り、写真がホームに貼ってある。絵を描く人の絵は、各居室の入口に、その人の名前入りで貼って、自分の部屋が分かり易いようにしてあると同時にホーム全体がギャラリーになっている。元気な時に寿司店を営んでいた人は、正月に鰯を3枚下しにして、包丁さばきを發揮した。

利用者同士でよく話をする。食事をする前や食事中も職員を交えて、色々な話の種がきっかけで、賑やかな話の輪が広がる。男性も女性も色々な仕事をしてきた人が多いし、比較的現役を去ってからの期間が短いので、それぞれ話題豊富である。

それらを職員は良く心得ており、一人ひとりの経験や能力を上手く發揮してもらい、その人のペースを大切に生活できる支援をしている。

特に改善の余地があると思われる点 次のような提案をした

現在の高齢者ケアの仕方や考え方は、明治や大正の人を対象に考えられていることが多いが、このグループホームで感じたことは大正の後半や昭和生まれの人は、自分に対する価値観や自分の経験した仕事に対する誇りなどに違いがあると思った。このような人に対し、グループホームでの生活をどのようにしてあげたら良いか考えて見たらどうでしょうか。私達も大いに関心を持ちたいと思う。ケアや生活の記録の方法や様式にポイントを置き良く考えて実践しているが、もう少し効率的に記録してその人のケアに生かしていくモデルを考えてもらいたい。また、「必要事項ノート」があり、職員からの意見の貴重な宝庫となっているので、この活用をもっと膨らませて頂き、職員間のコミュニケーションの手段として、ケア及びサービスの質の向上に役立てて頂きたい。

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物物の支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		

記述項目 一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か
 リビングルームや居室を歩き回り徘徊をしている人に、他の利用者が注意したり、庇いあったりして、利用者同士が助け合っている。お風呂に入りたがらない人に、うまく職員が誘導して「気持ち良かった。ありがとう」とさっぱりしてリビングルームに帰って来た利用者。利用者も職員も協力して安心して暮らせるホームを目指している。
 このグループホームの母体は病院で、そこにリハビリセンターがある。毎日歩いて、このセンターに通っている利用者が多い。楽しくリハビリが出来る施設で、身体機能維持に役立つと同時に、利用者の楽しみの場所でもある。

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		

記述項目 サービスの質の向上に向け、日頃か、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か
 毎月末、請求書を家族に送る時、手紙に介護職員が利用者の様子を書き添えている。この手紙を書く担当者は利用者ごとに決まっていて、3ヶ月毎に交替する。一人の利用者に職員が片寄らないよう平等にするため、担当者を変えるようにしている。
 以前から、近所を散歩しているので、近所の人とも馴染みが出来ていたが、段々外に出たがなくなり、部屋に閉じこもる傾向になっている。利用者にも無理強いしてはいけないが、管理者と職員が一丸となって楽しい生活ができるよう、色々なきっかけを投げかけて欲しい。
 昨年に新しい管理者を擁立しているが、職員と共に新しい指針も出してサービスの向上に頑張っていたいただきたい。

事業所名 グループホーム 多聞

日付 平成18年3月31日
 特定非営利活動法人
評価機関名 ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験15年
 評価調査員 在宅介護経験12年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		

記述項目 グループホームとしてめざしているものは何か
 「人間(人)が人間(人)として最後まで人間らしく(人)らしく」という理念を掲げているが、利用者が「感動」を持ち、「満足」の生活が送れ、「安全に」に一生を送れるサービスの提供を目指している。そのために人間が生きていく基本は「毎日の食事を楽しく食べる」、「自分の身体から排泄する」、「清潔を保ち、きれいな身体を維持する」を3本柱としている。当然ながら「利用者同士と職員のコミュニケーションと一人ひとりの生活の尊重」がこのグループホームでの生活の基本としている。
 この基本的な考え方が、利用者に対するケアの重要性をきちんと整理して、自己評価を含めた運営やケアをきっちりとしており、利用者同士が助け合って生活している事と、利用者自身の能力や趣味を生かした行動をすることを支援していることで実証されている。

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		

記述項目 入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か
 リビングルームの一面に坪庭があり、屋根から明かりが射し込んでいる。ガラスで囲まれ、1、2階から坪庭が見ることが出来、その周辺にベンチがあり、そこで新聞や絵本を見ている。
 食堂のテーブルで過ごしている人も多い。その奥に厨房があり、ここからリビングルームの様子や各居室からの利用者の動向が分かる。その横が浴室、脱衣場、洗濯室となっている。
 各部屋は、それぞれの人の生活歴や趣味、そして家族の様子分かる部屋づくりをしている。トイレや洗面台も各部屋にあるので、プライバシーは保てる。入口には楕円形の木製の表札があり、その上に全部違う動物の縫いぐるみが乗っている。絵の好きな人が描いた絵を各室の入口にも貼ってある。

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人のできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		